

倉校学びのUD通信

第1号

R2(2020)10.14

文責：土井

先日、「マナスタ」チェックリスト（第2回）の集計結果と校内チームによる分析を配付しました。ある程度できている項目については維持とさらなる達成を目指しつつ、ポイントが低かったり下降したりしている項目について、重点的に取り組んでいきたいと思っております。授業を参観して「いいな」と思った取組をいくつか紹介します。

【学習形態の工夫】

個人でワークシートに取り組んだ後に4～5人のグループで意見交換

【複数指示の配慮】

作業の手順をわかりやすく図を交えて示し、生徒がいつでも確認できるようにする

【振り返り】

ワークシートに「振り返り」欄を設け、目標に沿って自己評価ができるようにする

【積極的な発表】

導入で授業の内容に関連したミニクイズを行う→生徒「はい!」「はい!」(挙手)

【賞賛①】

グループや全体での発言があった際は皆で「拍手」を習慣化・定着させる

【賞賛②】

生徒一人一人に教師が丸つけをしてあげる→「そうそう」「ここがいいね」等の声かけ

☆この他にもたくさん良い取組をされていると思っております。校内チームまで積極的にお知らせください(自薦・他薦を問わず)。

「本時の目標」どんな表現にしていますか？

～振り返りにもつながる「〇〇できる」目標設定～

本時の目標は、その時間の「goal」(何ができるようになっているか)であり、目標を「to do」(「〇〇する」「〇〇について考える」など)とすると、授業の終わりに目指す状態になっているかどうかの振り返りもできにくくなります。

ネットで拾った指導案ですが、たとえば次のような「目標」が設定されていました。

(高校国語) 「私」や「K」の行動や心情に対する理解を深め、自分の考えを持つことができる。

(中学校数学) 標本調査の意味を理解し、標本の無作為性や標本の大きさに着目して結果を解釈することができる。

(中学校理科) 光の反射について調べ、調べたことをもとに像を鏡に映す問題を解決することができる。

【リマインド】研究/公開授業指導案
提出期限 10月21日(水)です

生徒に提示する際には、よりわかりやすく簡潔な表現に工夫したいですね!